

平成31年度 事業計画書

自平成31年4月1日 至翌年3月31日

公益財団法人 克念社

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

この育英事業は、克念社が創立して以来、現在まで継続している中心的な事業である。累計で貸費生総数は1,256名。若葉奨学基金給付生は4名。

(1) 平成31年度新規貸費生と貸費学資金について

平成31年度の応募者数は現貸費生で大学院などに進学する3名を含み、合計18名。平成30年11月30日に貸費生選考委員会を開き、応募者全員を希望額通り内定することとした。結果、新規採択者は、18名(月額4万円11名・同2万5千円7名)を予定しており、継続者35名で計53名。

この貸費学資金は、金2,238万円となる。

(内訳)	新規採択者	年30万×7名＝	2,100,000円
		年48万×11名＝	5,280,000円
	継続者	年30万×10名＝	3,000,000円
		年48万×25名＝	<u>12,000,000円</u>
	合計	53名	22,380,000円

(2) 平成31年度若葉奨学基金給付生について

風間若葉様からの遺贈を特定資産とし、これを原資として給付型の奨学金を創設して、3回目となる募集を行った。平成31年度の実施者は17名(うち貸費生との併願は7名)。貸費生選考委員会に引き続き、給付生選考委員会を開き3名を選考した。継続者は4名で、計7名。来年度の給付金額は、金168万円となる。

(3) 平成31年度貸費資金入金見込額について

当年度の貸費資金入金見込額は2,500万円の予定である。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

(1) 重要文化財「丙申堂」と登録有形文化財「無量光苑釈迦堂」の維持・管理および公開にあたっては内容の充実に努め、二つの文化財をセットとして有機的に結び付け、相乗効果を目指す。

(2) 「丙申堂」の屋根の葺き替えについては、2025年の実施を目途に鶴岡市教育委員会と相談を始めたところである。今後、文化庁とも意見調整をしながら進め、国県市の補助事業として実施したい。そのための準備を、杉皮の採取も含め、進めていく。

(3) 「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の入館者数はこの数年減少傾向にあるが、平成31年度は毎回好評の吉田サチ子さんと生徒さんのキルト展(4回目)が予定されており、10月からのDC(ディスティネーション・キャンペーン)、丙申堂がロケ地となった映

画「サムライマラソン」の公開（平成30年2月22日から）など集客に繋がる動きがある。また、今年のゴールデンウィーク10連休、新潟駅での上越新幹線といなほの同一ホーム乗換えが3月から全定期列車に適用となり、さらに庄内空港へのLCC（格安航空会社）の参入の話など、観光に追い風の要素が多く、入館者数の増加が期待できる状況にある。この機を逃さず、情報発信や観光客にわかりやすい案内やインバウンド対応を続けていきたい。

(4) イベント、企画展示について

- ・4月21日（日）鶴岡市在住の音楽家、鈴木美智子氏「日本の叙情詩をうたう」
- ・4月27日（土）～5月6日（月）小林肇氏（元つるもく社長）の写真展示。
- ・5月31日（金）～6月9日（日）「キルトの世界 日本のいろ・絹物語IV
～和裂のメッセージ 吉田サチ子と34人展」
- ・7月27日（土）つるおかルネッサンスの会のメンバーによる朗読会
- ・9月13日（金）藤原克巳氏講演会（源氏物語をテーマに）

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

- (1) 豊かな自然を持つ里山に親しみながら、山林を愛する心を育むと共に、森林を保全するために必要な山の仕事に対する理解を深めることを目的とし、親子で参加する森林体験学習会を春と秋の2回開催する。実施にあたっては、NPO法人「公益のふるさと創り鶴岡」と連携する。
- (2) 山林の整備は例年同様、外部に委託し、管理費としては従来の実績を踏まえつつ、山林整備に努める。
- (3) 「丙申堂」の杉皮葺石置屋根葺き替えのための杉皮採取に取り掛かる。杉皮を剥く適期は、梅雨明け時期に限定され、さらに一年以上広げて山に保管しなければならず、「丙申堂」の屋根を葺き替えるだけの量を揃えるには、平成31年度から準備したい。そのため山林管理費の予算に約100万円を計上する。

4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)

- (1) 基本財産の土地は、(株)庄交コーポレーション等に賃貸している。また、運用財産の内、本町1丁目の土地・建物は、(株)NHK文化センターに賃貸している。平成31年度も継続予定で、安定した賃貸収入により公益目的事業の遂行を図る。
- (2) 日本仏教研究のため、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対し行っている助成、及び日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究所に対する助成については、例年通り平成31年度も収益事業の中で継続する。そのため研究費として予算100万円を計上する。

以 上